

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		こども発達支援センター 大分なごみ園			公表日	2025年2月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		スペースは十分適している。体を動かし室内でも園庭でも遊べる環境である。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		職員配置も適切で、手厚い支援体制を取れるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		見通しが持てるように活動内容を絵カードでホワイトボードの掲示している。特性に応じて、刺激の少ない環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		活動内容は、発達段階に応じた内容に変えてそれぞれに合わせた取り組みが出来るよう準備物等も工夫している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		天候や個々の状況に合わせ、個室を利用し落ち着けるスペースや時間を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の終礼時や個別支援計画作成時には支援の振り返りを行い気づいた点や改善点を検討している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員会で共通理解の場を設けている。ご意見に対して、分析、検討、改善までできるかぎり迅速に対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		終礼や職員会議で全職員が発言できるような雰囲気や関係作りに努め、目標に対して共通認識できるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		外評価は受けていないが、法人で第三者委員会を設置しているので何かあればそちらで	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法人内研修を研修以外に事業所内研修も行い今年度は法人買いの事業所の施設見学を企画し学べる機会を設けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		アセスメントシートや発達検査を基にケース会議にて支援の方向性や具体的な支援方法を検討し実施している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		児童発達支援計画の内容は職員間で周知し、確認しながら日々の支援に取り組んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個別支援計画は、5領域に分けられた計画を作成し、個々に合わせた内容となっている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		児発会議を月に1回行い、そこで活動についての立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		季節に合わせた活動や、子ども達の流行に沿ったものを取り入れるようにしている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動と集団活動で記録を取っているためその記録も含めて計画の作成を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日の朝礼時に必ずその日の活動内容や登園児についての申し送り等を確認するようにしている。また、欠席の連絡などはLINEにてお知らせをするよう取り組んでいる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		毎日の終礼時にその日の振り返りを行い、次回の支援に役立つ共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		コドモンを利用し必ず記録を残している。また、支援に行き詰まった際には記録を読み返すなど支援の検証を行いや環境を整えている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に1回モニタリングをおこな、保護者のニーズを計画に反映させている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		可能な限り参加している。またその際には、他の職員にも会議前の聞き取りをし、子どもの様子など詳しく伝えられるよう、情報の共有を行い会議の参加をよう心掛けている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて会議への参加で連携を行えている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保育所等訪問支援を通して、情報の共有を行い、支援の方向性の統一をおこなっている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		就学予定の学校に入学前には会議をおこない、情報を共有したり、見学させてもらうなど連携を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	7		外部の研修にできるだけ参加し、質の向上に努めている。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		併行利用している園児も多い。また、地域のこども園のお祭り参加し交流を行っている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎の際や電話等で、園での様子を共有したり家庭での困りなどの相談を聞く等の対応を行っている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		今年度、9月～11月までで終えアレンとプログラムの講座を行い、保護者支援を行なっている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		利用開始時の契約時に詳しく説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		家庭へのモニタリングを必して、計画の中の優先順位をサービス管理責任者と共に考えながらつけている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		必ず管理者かサービス管理責任者が保護者に計画の内容の説明を行い同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		モニタリング時や担当者会議、個別支援作成時(年2回)、保護者との面談をおこなっている。また、いつでも相談できる閑居を整えている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	夏祭り・クリスマス会・がんばり賞では保護者やきょうだい児の参加もあり、交流の機会を設定している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	報連相を徹底し、何かあれば管理者や主任が迅速に対応するようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	各月で園だよりを発行し活動内容等が写真で見れるようにしている。また、コドモンにて一斉配信を行い業務の効率化ができています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	個人のファイル等、鍵のかかる棚にて管理を行っている。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	コドモンを活用する事で、家庭ではスマートフォンで情報を受け取れるようにし、対応を行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	今年度、地域の企業に参加してもらいハロウィン活動をおこなった。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	マニュアルに沿った訓練を行っている。また、天候等で訓練ができない日は、紙芝居を読んで災害についての学びをおこなっている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	毎月の避難訓練と9月には消防署の方に来園してもらい放水体験や消火器の使用訓練を行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	細かく状況を職員周知している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	必ず利用開始時に保護者に確認し、何かあれば法人内の看護師にも相談できる環境を整えている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	遊具の点検等、定期定期に業者をお願いをし安全確保に努めている。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	些細な事でもヒヤリハットを作成し、職員間で主知を行っている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	虐待防止委員会を中心に研修を行い、虐待防止チェックリストも3ヶ月に一度つけるようにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	身体拘束が対象となる利用児については計画にて同意を得ているが、基本的に身体拘束はおこなわない。また、そのような事態が起き場合には、その背景や状況を保護者に説明し、支援の振り返りや改善を保護者と一緒に考える必要がある。	